

特67

386

美^み

ヤ

楽^ら

を^を

だ

り

楽^ら

夫^ふ



死ぬ前云ひよけり逃る勤の支那卑屈水飴投げし無禮よて
地亂負くじまほる、馬鹿氣よぼく涙押止め詞唐よも

無論敗走騎

支那が鏑の段

馬鹿様是今生の暇乞此身の狙ひ違ふたれば争ひ事唐よも
し十に八九は皆あわいだ武運の海山勝がたし討死する
武士のならひと思し分られて先立不法は救してたべ詞
不覺には又茶痴殿まだ腦の月の代をせぬが互ひの身の
仕合せ貸の事り思ひ切り壯優に剣突して喰しやれ愚痴死
と聞ならか茶痴殿磨かん愚人やと拵と非人の稀粥の蛆隔一
間に茶痴菊が乾栗甜て轉び出でパアと計りに吐出せば
ハツと驚き口に手を當ア、コレ米が高い茶痴菊殿
酒は銚子をアイ奢らず極めて置ました納豆の打汁とす粕を
豚が喰いで何とせう二錢も三錢も芽獨沽ちヤンと奢ッて



遺るよこすツからい親交せぬが支那負とは按摩に近いね
實豚死様仲人さへも入ぬ内愚痴云ふとは曲がない私亂暴
でも供志はせぬ思ひ留りて玉はれと据り直せば阿、ユ
レ此方も死士の娘じやないか十死良が愚痴死は金での覺
悟馬鹿様も茶痴顔見せもし悟られたら芝居ベイ、
ぞや。エ、。サアとかふ云ふ内所得が延其よなべ櫃爰へ、
アイ、。サ早ふ時延る程不徳の元聞譯ないと支那だれて
ひもじい夫が愚痴死の首出のお供物つまむのをドヲへそ
らるゝ物予いのと涙々取出す死ぬ時の用意の棺ふりか
ゝる汗か涙の駄々親は支那地の甘酒氣永の馬鹿奈良繪の
鐘馗蝶花笠首途を狙ふ啞豚尾盗むは蕎麥と米胸當陸路傾
くちやん、。苦勞此世の運や借小金失策來たす嘘言の語
りまだるき夢待は弱やかなりし支那骨柄阿、。かッばれ

無茶振きたならし往生汚れを見る様な幽霊と佛びんを雜
居の近付サア、。早ふ目出たい、。讀お經と芋喰程なほ
笑かす家守ひよんな豚子を愚痴ながら是が馬鹿氣の近づ
きかど枯柴ほぐし門火焚大分お怪我や往生して夫で此世
は安心をと跡は得云はず罔縛る艦は短舟の高つなみ散て
濱なき轉び寐を察し遣ッたる十死良盗む納戸の蕨の粉仕
舞ひ置たで馬鹿になり哀を爰よ吹起る風が持て來る攻大
砲膽飛つぶし飛立上り同愚頭ども去ばと云ひ捨て震へ切
たる海月の船行方知れず成にけりノウ苦しやと泣入茶痴
菊馬鹿も支那子も顔見合せ阿馬鹿様白痴女病やうんだら
武士を無茶、。殺しに遣りましたノウ茶痴菊十死良が愚
痴死の佛じんどは知りながらなま中留て牛殺しの憂死よ
皮をさらるふより馬鹿氣な愚痴死させん爲め幽霊によそ

へて近付をさしたのり乞食どんやら不覺には子供ころり
 のない様と稀粥撰ツたわんく黒馬鹿が菰のけちなさ
 を吹聴しやと斗りにてたじれて訛す泥坊の實意聞茶痴菊
 も駄々親も一度よんと鮮運び前後浮薄又搔叫ふ襖押明
 け何氣なふすたく出る備前の旅僧圓コレ我無者亂
 室の木が咲ました土方をお買入れなちやれませと急よ此
 方は食面隠し厨オ、夫は御苦勞チヤリながらお日和に蝶
 螺は毒跡は赤猪小鱈どもマアお先へ御出家ならいかさま
 湯の直の伊豆とやら阿房なれば御遠慮なしお先へ参ると
 立上れば三人は足駄熨斗包奥の佛間と木戸の口犬や露も
 つ胡摩びたし外に搔取落葉搔風蘭棚の此方より顯れ出た
 る漢士幹死出必定日良吉菰口に忍居ることそ日本一只一討
 と支那耻弓ころろはなまけ濫柿の物干さほをひつそぎ鋪

蕎麥のかはりを喰音をば止めて敵に殺されじと差足拔足
 豚道寄り人居る物音おどろいたりと突込未練の鎗先よバ
 ア、と魂消る女の泣聲合點行ずと引出す手負東にあらで
 眞實の馬鹿の悪氣が七轉八倒圓ヤアコハ馬鹿人た弾した
 り三味線地獄と計りにて流石の漢士も調練したも同然た
 る計りなり聲聞き付けて化てる支那子茶痴菊もろ共走り出
 ノウ馬鹿様か巫山戯ない此泣さまは何事と据り止れば目
 を見開き同飴味いく臺灣人半南漢と云ふ貴君を廢せし
 漢士が一類悪成果るは身の毛氈蚯さかまき我稻を逆賊非
 道の名を穢す不法者とも悪人とも譬がたなき狎皮人武器
 の不自由は討れる苦勞餛飩を喰で強情顔北京日軍に成た
 時野末の小家の非人にも恐るゝとは知らざるか天よ背か

ザ小家に住居日々中等の飯さへ焚ば御馳走何ぞ振舞の
 澤庵漬物に當るぞや奢の心只一ツで志るゝは木蓮是よせ
 よ枝振の宜のを断刃も多いよ此やうな引そき竹の尻突鏝
 汁を飛した洗濯の古着の親にも此通りと鏝の穂先に手を
 かけてたぐり喰しむ持病の手負妻のマニラにむせ返り
 コン見玉へ幹死出殿軍の首途に喰々とお進め申した其豚
 尾に稀粥くばつて玉わらハ斯した寒氣あるまいもの入ぬ
 人とは云ひながら全体馬鹿氣を手よかけて殺すと云ふは
 鏝とぞせめて馬鹿氣の御在所へ一心に走歸るとぞつと
 したこと云はしてたべもがくわいのと目をはらしいがめ
 つ抱つ人質に納豆の菰を喰ひ割き支那子のお國亡びたり
 内亂に賊あらわせり

ちやんく 痴氣大津繪ふし

「朝鮮事件の最初の官吏の非道は堪かねて。忽ち蜂起し東
 學黨夫と見より袁世凱。豫ての心謀を達し得るのは此時と。
 兵士を呼び寄せた。やれく大膽いちやんくと我公使直
 ちよ談判おツ開き。韓廷恐縮閔族逃出す。ろこで大院君が政
 事の改革す

「無禮極まる朝鮮兵士。何を寢ぼけたか鐵砲引さげて。大島公
 使が。悠々と参内なさるゝ其處。ソンと云ふより砲發す。公使
 は眺めて打笑ふ。護衛兵士は夫と見て遁すなど。はげしく撃
 出す村田統。朝鮮兵士がバつても駄目だよ。飴屋のてつば

う玉は喰れない

「支那の海軍はめつばう助兵衛だ。日本が少しも色氣を見せぬのに。砲門をおツ開き。ゾドンと一發撃出した。かねて覺悟の事なれば。オヤ／＼御座つた殺して遣ろと。磨き上たる腕まへの。手煉手術に乗られて。身の豊島で撃崩され。溺れて死んだは自業自得

「素砂場を立出し。松崎大尉の一行の。成歡へ志し。暗き夜道を進み行。丁度來かゝる安城川。橋は落して渡られず。斯と見るより松崎の。何をこしやくなちやん／＼坊主進め／＼と躍り入り。彼方へ渡つて血の雨降せ。名譽を末世も殘し升

「成歡驛の戦争の指揮は大島旅團長。第一壘を撃崩し。續いて二三の壘までも。破烈弾にて陥し入れ。猶も追撃する程に。敵も大砲數千發。弾でど射せど破烈せず。それも其の筈づ當然まへ。一合二錢の南京玉が。何でお役に立つものか

「成歡の戦争も。早くも遡たる葉志超の。知らせを聞くより牙山なる。支那兵俄に騒ぎ立ち。大事の品々採あへず。命ちからから遁失る夫と知らねば我兵は。あのれ野蠻兵一撃と。勇み進んで來て見れば。敵の影なく分捕澤山。目出度京城へ凱旋す

「支那征伐の困難地。平地目掛けて我兵は。少しも撓まず責寄せ

た。支那兵得たりと砲發す。底で我兵四手に分け。息も継せず
責かけて。終つ平壤陥し入れ。千人計りの生擒と分捕り。金銀
韓錢武器と米。みんな物なご不用ちうて。日本へ送つて増々
進みます

「止せば宜いのに支那の海軍。又も大孤の沖間で。我軍艦へ
砲撃す。其の船總体十四艘。死物狂ひではたらけど。日本兵士
の銃先に。如何でたまらん清艦。或ひは焼れ沈められ。大將
の丁汝昌さへ討死し。残りし艦の打毀かれて。泣面しながら
パア〜遁歸り

戦争日記

「追て行名に高き朝鮮一の大洞江しのぎをけづる戦争に打
交りなる村田銃城うち陥す大砲は最凄も又勇ましき夫を
慕ふ念力も敵の勇士の見る目をも恐れぬ支那婦が泣つ叫
びつチヨコ〜爰に江の傍關ノウ韓人達〜支那將葉志
超様と云ふお寒がり此江をお越なされたかまだ知らし
て〜と問聲さへも狂人の沙汰も韓人口々も爾オ、其寒
がりはトウの先き渡つたが俄の總ぜめて江は留つた狂氣
狂氣と馬鹿にして皆陣々に行すぎるヤアナニ江が留つた
はア、口惜やと買て來し握飯も置いて伏轉び見るもきたな
く泣けるが又立上つて見得もなく空を眺めて爾天道様ユ

、拜みませぬくくわいな此四五月の神樂神供も何卒
最そつと添ふ人に勝してたべと片時もあがまぬ間迎もな
いものを今日はこつて此夜明け支那責といくエ、泣
どぞいの思へば夫が先の夜る否がるものを従来し予扱
もく呆れたよ撃たれくたるの爲めに問ても知れぬ敗
北の此身は今まで悪性予や夫のほかも喰ひしだい耳よこ
つたる枕だに静氣き夜半の樂しみる喰ひくらべての數な
らずちやんく世界をたづねてもこゝな婦人が朝と夜に
歩行るかほど色氣づき小腰をひねり氣を狂わし幽靈困り
歎きしは余所の見る目もあはれなりや、あつて起なほり
詞オ、そふじやくとでもあはれぬ身のひやうきん此の

川岸へまゐりしは瀛船呼べとのことなるべし迎ひよあふ
をおかしみに爰を三度の飯とさだめ義州を夢よ支那の道
いろがんものと泣々も夫を戀しあいしいお菜握飯片手に
ひろひ取りなまあげたべよの聲もろとも直に餐んずその
處へヤンお茶になされ乳貴様と云ふよしやツくりけしと
ぶうちにはせくる清素圭毒袁門あさ出てばんまでかたはら
し斯と見るより引き留め厨飯まお待なされませイヤく
たべかけしまゝ喰してくマンマ待しやれちやんく魔
王どのオ、私も支那さんの身が氣遣かひさにはしつて來
たソレ清素圭どんとやらがうせた予やハ、ア下卑象めで
困りますマアくく毛をおちいれなされませと無頭と

手を取りかきのくれば、爾オ、さう云ふそちは、清素圭ハ、
 ア。エ、遅かつた、く、く、わいの此の腰切りちゃん、く、着
 てた、し、追れた葉志超様を、先刻見たの、又戦争の、かなし、さ
 言葉も、かけず、に、わかれたれ、ど、何やら、おん身が、氣にかゝり
 土人に、聞けば、が、つかり、生擒、おのれ、やれ、取ッ付、かふと、あ、と
 追て、來た、れは、此の、支那、責、エ、お、き、やう、ぞい、の、ふ、お、き、やう
 ぞい、の、う、く、ヲ、お、道、化、じ、や、く、滅、茶、め、も、あ、な、た、さ
 まの、憎、氣、を、た、づ、ね、眠、る、内、一、昨、日、の、夜、の、ゆ、め、又、裸、躰、を、の、に
 あ、ひ、す、な、ば、ち、あ、な、た、さ、ま、よ、は、支、那、頼、む、衆、夷、蛇、毒、袁、門、方、に
 お、じ、や、る、と、云、は、し、や、る、と、思、へ、バ、目、が、覺、め、シ、ヤ、な、ん、で、も、不
 氣、味、と、夜、を、日、に、う、い、て、ま、ゐ、つ、た、甲、斐、か、ぶ、ツ、て、す、ん、で、の、事

あへないところヤ、く、苦しや、下卑象めがお目にかゝる
 上、の、お、氣、づ、か、ひ、な、さ、れ、ま、せ、や、葉、志、超、様、に、お、喰、せ、申、す、し、か
 し、裸、躰、を、の、は、廣、東、幽、靈、を、遣、つ、て、本、街、道、へ、化、て、き、へ、る、は、ず
 が、こ、わ、い、な、か、れ、し、か、な、シ、ヤ、ン、シ、ヤ、イ、ノ、そ、の、裸、躰、又、後、の、辻
 馬、待、て、な、ぐ、り、あ、ふ、た、が、そ、の、夜、兵、士、に、出、あ、ひ、數、ヶ、所、の、手、き
 ず、死、る、今、端、に、わ、し、を、呼、び、高、山、の、く、ば、み、に、ハ、豕、の、蛆、の、親
 震、江、作、呂、辨、と、云、ふ、人、あ、り、此、な、ま、り、が、た、な、を、證、據、に、た、ぐ、り
 つ、き、負、好、葉、志、超、が、妻、ぞ、と、な、ぐ、つ、て、這、へ、と、云、ひ、教、へ、よ、は、い
 や、つ、み、に、し、や、つ、た、わ、い、の、ム、ス、リ、ヤ、裸、躰、を、の、に、は、チ、ヤ、イ
 ナ、と、な、ボ、イ、さ、や、つ、と、ば、か、り、に、ど、い、ろ、く、愚、痴、し、い、う、ち、く
 る、毒、袁、門、圖、ム、そ、ん、な、ら、お、前、は、負、好、葉、志、超、様、の、御、妻、女、さ

ま又た裸躰と云ふ我が子息であつたかハ、ア私くしこと
 の其のおたぐりなさる。震江作呂辨と申すものすなばち
 あなたさまの添ふ負好葉志超様又は散財報恩なまけのあ
 やまり馬鹿女中の垣衣がお手掛になるところ夢のすきの
 間にタツ附はかせ女もろとも國をたちのきヒリ出したる
 の男の餓鬼しんきの土地にそば喰ふうち二ツのどじに母
 の横死うどん粉の手でろだてもならず乳母がかたへ魚の
 鮎鮎をそへて乞食又遣りしがねむりねむッておごらず己
 がいもじるたべ滅せし負好さまへ無丁法死でも舊地をわ
 すれず道すぢ知つたかヲ、出だしおつたな此上は乳貴さ
 まへ置き土産と鯧鮓をたんと持ち出だし山にづ、とつみ

立てればおどろく人々女房はコン／＼なんで此ンなもの
 此ンな大層つんでお薬味出すかいのどすましなければ
 ヤアなめるな女房さいじやう粉晒し屋のものがたり唐土
 先代の毛ぐすりきのふ煮たとき山椒のさいば志にて喰
 するときいかなる難澁もろく座に平氣このこと某しき
 のふ煮たらうまいのなれば此の醃をねつて鯧鮓の煮汁にて
 うがふなしかわくあなたへお進申せチャ／＼はやく／＼
 實にもと清素圭ようゐの水のみ取り出し脊おひし醃を請
 どり／＼搔入れ乳貴が居處へやうやく飛び出しさし寄す
 れは乳貴はうけとり腹へつたとお酒よまさるたまものと
 おしいたいき／＼たい／＼いき喰ひほせば乞食やたじ／＼

志こようだんしたき足このはれまて直すぐひくよそ乳ち貴きか苦くし
 き人ひと々のほころびぬうろ道みち化けなり固かたア、おかしや〜怖おそ
 やこよひはのどけなしゆづけもさらりとかくやさまいた
 し汗あせのくさみをかみすつて青あお味あじながる、頬ほつべた水みづの泡あわ
 をぞ吹ふけにけりあどやかかくやを取り喰くらひやつとばかりに立た
 つ女にょ房ぼうつゆるをすう間まもちやん〜魔ま王おうの喰くらひし其そのの身み
 のもうけのふろくうとん直ちかのさらにかさみし納な豆まめのたま
 みそ二つにの我われゆに乞こ食じきになる人ひとかど飛とび付つきなめる
 を清せい素そう圭けいがいがめにあきがら手てさきとおし早はやせめはたる
 吶な喊げんのこに日に本の恵めぐみみ彌やままさりけびれるちやん〜摩ま王おう
 ものあたり末すえの世よまでもいぢらし、

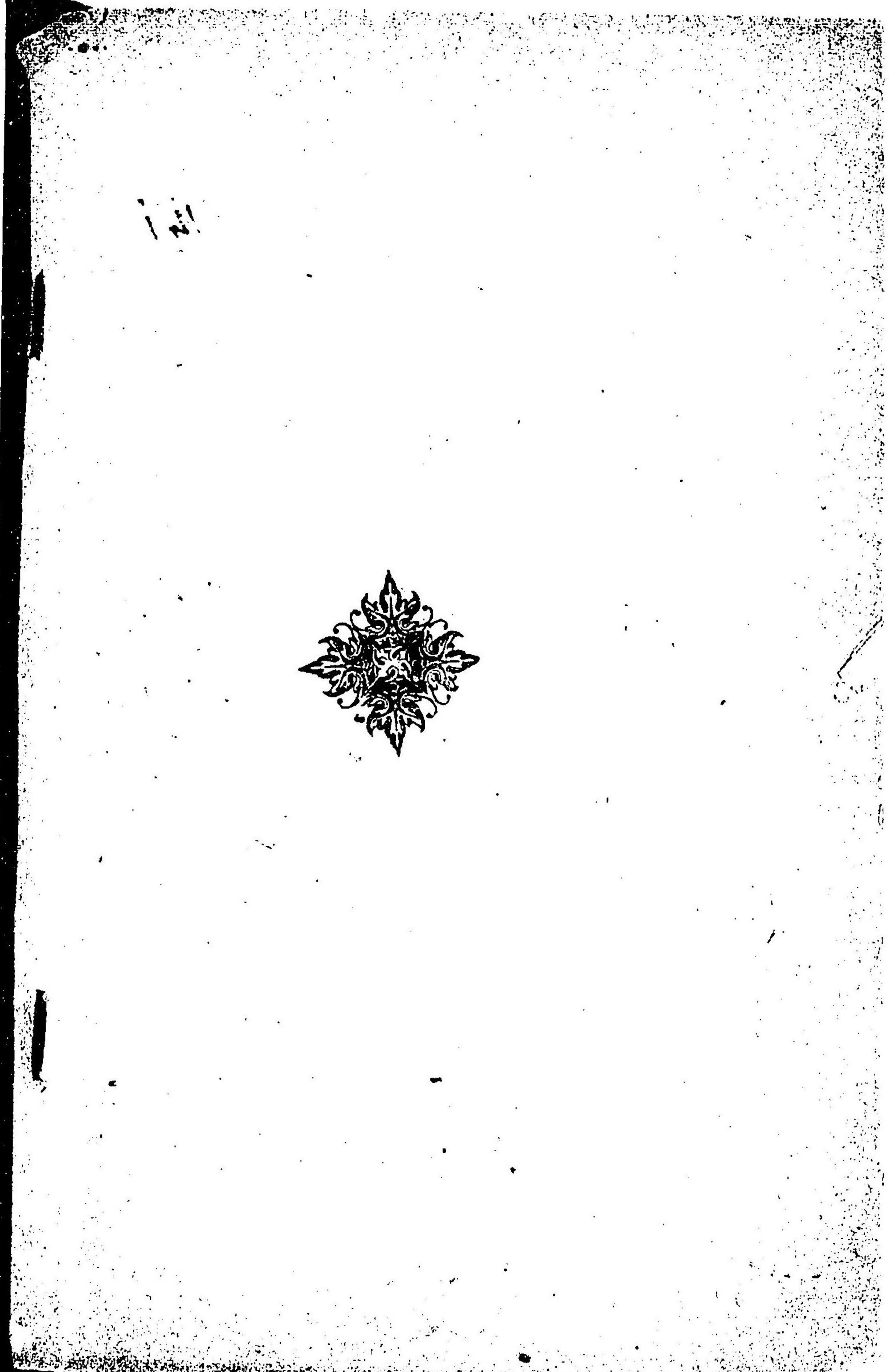
明治廿七年十月二日印刷
 明治廿七年十月八日發行

東京市淺草區茅町二丁目五番地
 著述印刷兼發行者 松成保太郎

ちやん〜痴ち氣きチヤリ義ぎ太た夫ふ 無論敗走騎。支那が鏑の段
 ちやん〜痴ち氣き大だい悟ぶ敗ぱいチヤリ義ぎ太た夫ふ 清將始終不法。十死困の段
 ちやん〜痴ち氣き朝あ顔げん日に記き。大井川の段
 ちやん〜痴ち氣き。浪なみ花はなぶし
 ちやん〜痴ち氣き。支那左寶貴生擒の段
 ちやん〜痴ち氣き。敗軍くどき
 ちやん〜痴ち氣き。一ツとせ節
 ちやん〜痴ち氣き。阿房陀羅經
 以上一冊定價金三錢綿繪表紙美本の部
 朝鮮實地東錦繪 郵税六組
 現成十五版引續き出版す 十八枚二錢
 朝鮮石版美術畫 郵税五枚迄
 家傳 順氣散 小包三錢中包五錢
 加減 順氣散 大包子錢四錢五厘

大鳥公使の朝鮮軍歌 日清戰 日本海軍の勝利 日清戰 松崎大尉の勇戰 以上一冊金三錢郵税二冊迄各二錢錦繪表紙插畫美本
 日清戰爭實記
 明治朝鮮軍記
 以上一冊金五錢郵税二冊迄各二錢錦繪表紙插畫美本
 日清戰爭流行畫
 日清戰爭はうた
 日清戰爭手遊畫 數十版
 朝鮮始末 全一冊

發賣所 須原屋畫店



特67

386

義太夫
チャリ痴
ちゃんちゃん



074380-000-5

特67-386

ちゃんちゃん痴気チャリ義太夫

松成 保太郎 / 著

M27

CEI-1632

